

『子どもと家庭に関する実態調査』のクロス分析による考察

所 長 平山 宗宏
研究第5部 網野 武博
研究第7部 高橋 種昭・須永 進
研究第8部 星 美智子・湯川 礼子
嘱託研究員 高野 陽(国立公衆衛生院)
坂井 良生(厚生省児童家庭局)
柏女 霊峰(厚生省児童家庭局)

要約:

昭和63年11月に実施され、平成元年5月にその結果の概要が発表された厚生省児童家庭局『子どもと家庭に関する実態調査』について、更に詳細なクロス集計による検討を加え、考察した。その概要は、以下のとおりである。

- 1 家庭に関する悩みは、核家族よりも三世代家族の両親にその割合が高かった。また共働き家庭においては、家庭に関する悩み、育児に関する悩みともに核家族よりも三世代家族の母親の方に高い割合で見られた。祖父母と同居していることによるメリットとともに、家族関係、仕事と育児の両立、育児方針の相違等をもたらす悩みの可能性が示唆された。またこれらの悩みを持つ割合は、母親の方が父親よりも高く、特に育児に関する悩みに関しては父母の一致度が低く、父親の側の思いやりが望まれる。
- 2 家庭のイメージや家庭生活、子どもとの夕食のとり方等については、末子の年齢による相違が見られ、末子の年齢が高くなるにつれて、「保養型」から「相互援助型」へ、「子ども中心」から「夫婦中心」へその割合が変化し、子どもと夕食を共にする母親の割合が低くなる傾向があらためて確認された。
- 3 近所付き合いを望む割合及び実際の付き合いの程度は非常に低く、また世帯構造別の相違等を考慮すると、今後の地域保健・福祉サービスの具体的なあり方として、世代間の育児意識の差を緩めるような家族援助、同じ立場の親たちへの地域ぐるみ援助等が重視される。
- 4 共働き家庭が増加する中で、仕事と家庭の両立に向けて努力している傾向が、母親のみならず父親にもうかがわれた。共働き家庭においては、父親、母親ともに育児休業制度の充実を求める割合が高く、その重要性があらためて確かめられた。また共働き家庭においても、父親は母親よりも、いずれかの親が家にいることを望む傾向が強いことをうかがわせるものがあった。
- 5 ひとり親家庭と一般家庭で比較すると、生活状況の相違が総体的にひとり親家庭に不利な条件を抱えさせていることが、あらためて浮き彫りにされた。母子家庭、父子家庭ともに家庭生活、社会生活両面にわたる余裕のなさ、育児上の不安が高い傾向が見られたが、特に母子家庭における母親就労の必要性、核家族としての自立の必要性が、健康状態や悩みの有無、近所付き合い等において父子家庭よりも一層不利な条件をもたらしている。今後の家族支援体制上十分に考慮すべきことと思われる。

見出し語: 子どもと家庭 育児 核家族 三世代家族 共働き家庭 ひとり親家庭 全国調査

Cross Analysed Study on Nationwide Survey in Reference to the Children and their Families

Munehiro HIRAYAMA, Takehiro AMINO, Taneaki TAKAHASHI, Susumu SUNAGA,

Michiko HOSHI, Reiko YUKAWA, Akira TAKANO, Yoshio SAKAI, Reihou KASHIWAME

Results of Nationwide Survey in Reference to the Children and their Families were cross analysed and considered. Main subjects of consideration were parent's problems on family and child rearing, family life, family's communication in community, both parents working family and one-parent family etc.

Key Words: Children and Families, Child Rearing, Nuclear Family, Three-generation Family, Both Parents' Working Family, One-parent Family, Nationwide Survey

I 研究の目的

「子どもと家庭に関する実態調査」は、昭和63年11月に厚生省児童家庭局によって実施され、その結果の概要はすでに発表されている。しかしその内容は単純集計に基づく成績なので、クロス集計による検討を加えることを目的として取りまとめを行なった。

II 研究の方法

厚生省児童家庭局による「子どもと家庭に関する実態調査」は子どもや家庭を取り巻く社会環境が変化しつつある中で、家庭生活・親子関係等について実態と意識の両面から現状を的確に把握し、もって今後の家庭支援策に資することを目的としたものである。

調査の対象及び客体は、全国の20歳未満の子どもがいる世帯及びその保護者（父母等）を対象として、昭和60年国勢調査により設定された調査区から無作為に抽出した1,800地区内（国調、調査区の1/400）の20歳未満の子どもがいる世帯の半数の世帯及びその保護者を客体とした。調査の時期は昭和63年11月1日である。

20歳未満の子どもがいる世帯数は、22,158世帯。その保護者数（父母等）は、41,871人（推計）。回収率は、19,142世帯（回収率、86.4%）、34,235人（同、81.8%）であった。なお20歳未満の子どものみ世帯は調査客体から除いた。

調査は訪問による聞き取り調査及び留置票の回収による方法で、面接票の回収率86.4%、留置票の回収率81.8%であり、有効回答率はそれぞれ98.8%、99.5%と良好であった。集計に用い得た調査数は以下の通りであった。

世帯総数	17,816
母子世帯	875 (4.9%)
父子世帯	177 (1.0%)
養育者世帯	49 (0.3%)
その他の世帯	16,716 (93.8%)

われわれが調査項目のクロス集計を行なうに当たっては、児童家庭局が集計に際して調査票内容を打ち込んだテープから、有意義と考えられる項目の組合せを選んで打ち出しを依頼し、その表を用いて検討した。

ただし、「両親のいる家庭」と「ひとり親家庭」では育児をめぐる環境が大きく異なる可能性があるため、2群に分けて取りまとめることとした。

そこで、本報告では第1部を両親のいる世帯（家庭）、第2部をひとり親及び養育者世帯についての成績とし、取りまとめの方法としては、質問項目ごとに、世帯構造別（核家族・三世代家族）、市郡別、共働きか否か別、父母別、子供数別、末子の年齢別等に検討した結果を示すこととする。

III 結果及び考察

第1部 両親のいる世帯についての検討成績

<1> 家庭に関する悩みごと

調査では主として次の6項目について有無を質問している（重複有り）。各項目の後の「 」内は以後の略称

- ① 子供や家族のふれあいの時間がないなど家族関係で悩みがある。「家族関係」
- ② 祖父母など親戚関係が十分でない。「祖父母」
- ③ 親類や近所づきあひもない。「近所づきあひ」
- ④ 子供の育て方に自信が持てない。「育児の自信」
- ⑤ 老親、病人が家族にいる。「老親病人」
- ⑥ 子育てと仕事や社会参加との両立が難しい。「育児と仕事の両立」

1. 世帯構造別（表1）

両親のいる世帯全例について、悩みごとなしは59.2%で過半数、有りが40.8%であったが、世帯構造別には、有りは、

三世代家族：47.4%、核家族：37.9% で三世代に多かった。

悩みの内容は、「育児と仕事の両立」、「家族関係」の順は両者で同じだが、三世代家族では3位が「老親病人」であった。

なお、世帯構造と悩みごととの間には「育児と仕事の両立」以外の項目に有意差が見られた。三世代世帯の方が一般に家庭に関する悩みを持っている家族が多いといえよう。

2. 市郡別（表2、3、4）

本調査の対象の居住地は、市部77.0%（内訳、11大都市16.0%、中都市31.1%、他の都市30.0%）、郡部22.9%であったが、高齢者のいる家庭の割合は、

市部：19.6%（11大都市16.0%、中都市16.9%、その他24.4%）

郡部：37.3% と、郡部に多いことが示されている。このことを考慮しつつ以下の市郡別の比較を行う。

家庭についての悩みをもつものの割合は、

市部：41.2%（大都市40.2%、中都市41.2%、その他41.8%）

郡部：44.9% と、郡部でやや高いが、悩みの内容には差が認められず、わずかに「育児と仕事の両立」で、市部17.2%、郡部21.5%とやや郡部に多い傾向が見られた程度であった。わが国の総都市化傾向の現れかも知れない。なお、この

「両立」に悩みを持つものを、父母別にみると、

市部：父親15.6%、母親18.8%

郡部：父親18.4%、母親24.6% であり、母親の方に悩みを持つものは多いが、傾向は同様である。

3. 共働きの母親についての集計（表5、6）

以上は全合計についての分析であるが、ここでは共働きの家庭の母親についての集計について解析する。

1) 共働きの母親8,445人についての調査によれば、市郡別では郡部の母親に家庭に関する悩みは多いものの（市部：46.8%、郡部49.8%）、悩みの種類別については差はない。

2) 世帯構造別では、前記1と同様であって、核家族43.9%、三世代家族53.8%と三世代世帯に悩みを持つ母親が多かった。内容として三世代世帯に「老親病人が多い」が多いのは当然として、「育児と仕事の両立」にも悩みを持つ母親が多い（核家族23.9%、三世代家族27.7%）こと、「育児に自信が持てない」もやや多いところを見ると、祖父母がいて育児上の助けとなっていて、育児方針の違いや気苦労が悩みになっている可能性を示しているといえよう。

4. 父母別（表7）

父母別に大きな差はないが、悩みを持つのは、父親32.5%、母親38.9%で、父親に少ない。父母とも悩み無しは全世帯の46.8%で、悩み無し回答の父母の一致率は72.8%と高かった。父母共に悩みを持つことの多かった項目は、「家族関係」と「育児と仕事の両立」であった。また、母親の方に悩みが多かったのは、「育児の自信」と「育児と仕事の両立」であり、育児への責任感や心遣いは母親に強いこと、父親（夫）の思いやりの特に必要などところであることがわかった。父母の悩みの一致度の高かったのは「老親病人」の項目で、これは当然予想される通りである。今後この悩みをもつ家庭は増加するであろう。

<2> 育児に関する悩みごと

主として次の6項目について有無を質問している。

（重複有り）

- ① しつけに関すること
- ② 健康に関すること
- ③ 勉強や進学に関すること
- ④ 友人に関すること
- ⑤ 心身の発達（言葉の遅れなど）に関すること
- ⑥ 非行、登校拒否、性に関する問題に関すること

1. 世帯構造別

育児についての悩みを持つものの率は、

三世代家族：61.6%、核家族：65.5%で大きな差はない。悩みの種類の差もない。育児については祖父母のいることが助けとなっている面もあるからであろうか。

2. 市郡別

育児について悩みを持つものの率は、

市部：62.4%、郡部：66.1% と、郡部に多い傾向があるが有意差ではない。都市の中では大都市が60.8%ともっとも低い。

悩みの項目別に検討すると、「健康」「心身発達」に悩みを持つものが市部に多い傾向はあるが、他の項目はすべて郡部に多い。「勉強」や「非行」などに悩みを持つ親がむしろ郡部に多いことは、このような問題が全国的規模で拡大してきている証左といえよう。

3. 共働きの母親についての集計（表8、9）

共働きの母親の育児に関する悩みは70%前後に認められた。

1) 市郡別には、市部67.9%、郡部70.9%と郡部に多い。悩みごとの内容に市郡部別の差はないが、「勉強」、「しつけ」、「健康」が上位3つである。

2) 世帯構造別には、核家族66.9%、三世代家族71.9%と三世代の方が悩みを持つものが多い。その内容を見ると、核家族では「勉強」が1位に対し三世代では「しつけ」が1位で1、2位が入れ替わり、3位はいずれも「健康」であった。

4. 父母別

育児についての悩みを持つ者は、父親で46.7%、母親で63.2%で母親に多い。前項目同様、父親の思いやりが望まれるところである。父母とも悩み無しの世帯は全体の25.1%にとどまり、父母の一致度は55.7%であった。

項目別に父母共に悩みの多かったのは、「しつけ」「勉強」ついで「健康」であった。

< 3 > 望ましい家庭のイメージ

5つの類型に分け、うち1つを選ばせている(重複なし)。

- ① 保養型: それぞれ家庭の一員がゆっくりくつろげる家庭
- ② 啓発型: 相互啓発と相互刺激をしあえる家庭
- ③ 共同生活型: それぞれが自由に生きている家庭
- ④ 友達型: 気のあった仲間同士のような家庭
- ⑤ 相互援助型: 助けあって生きる家庭

また、その実現の程度を、「実現している」「まあ実現している」「あまり実現していない」、「実現していない」の4段階につき質問した。

1. 世帯構造別(表10)

三世代家族では、相互援助型が40.3%、次いで保養型が38.1%でこの2つを合わせると全体の8割近くを占める。核家族では順序が逆で、保養型40.4%、相互援助型35.5%となっており、望んでいる家庭のイメージに若干の違いがみられる。その実現度をみると、「まあ実現している」を含めた実現度の割合は、

三世代家族: 73.8%、核家族: 77.0% で核家族が多少高い。

三世代家族という人生価値観のやや異なる世代が同居する難しさが現われたものであろうか。

2. 共働き家庭についての集計(表11、12)

父母別、かつ母親の就労状況別に集計したが、「保養型」は父母ともに母親のパート勤務に多く、「相互援助型」は逆に正規勤務とくに自営業に多かった。

「啓発型」「共同生活型」はいずれも数%以下で全体として多くはないが、母親の就労形態に関わりなく父親の方に多くなっていた。つまり母親が働いているからといって家庭のイメージは違っていないということで、なおわが国の伝統的な家庭観が強く生きているということであろう。

3. 父母別

父母で意見が一致していた世帯は、全体の53.7%であり、項目別には、「保養型」「相互援助型」を選ぶ者が多くと共に父母の一致度も高かった。「啓発型」の回答は少なく、母親はより少なく、一致度も低かった。

4. 末子の年齢別にみた集計(表13)

全体としては「保養型」38.8%、「相互援助型」37.6%の順であるが、末子が6歳未満では「保養型」43.6%、「相互援助型」33.2%であり、子どもが6歳を越えると「相互援助型」が1位になって順序が逆転し、子どもが18歳以上では「保養型」33.4%、「相

互援助型」40.8%となっている。家庭の考え方が夫婦中心になっていくことと関係のあることであろう。父母の間での差は少ない。

< 4 > 望ましい近所付き合い

望ましい近所付き合いについては、次の3つの程度、および具体的な実態として4つの程度を質問した。

- | 望ましい | 実態 |
|------------|--------------|
| ① 活発な交流 | ① 親しく付き合っている |
| ② ほどほどの交流 | ② ときどき話をする程度 |
| ③ 必要最小限がいい | ③ 挨拶をする程度 |
| | ④ 名前も知らない |

1. 世帯構造別(表14、15)

望ましい近所付き合いでは、活発な交流を望むものが、

三世代家族: 17.1%、核家族: 11.7%、実態として「親しく付き合っている」割合は、

三世代家族: 29.3%、核家族: 25.4%と、三世代家族の方が近所付き合いは深い傾向にあるが、それでもこの数字の低いことは最近の世相を反映している。前述の家庭内での悩み等と考え合わせ、今後の地域母子保健・福祉のサービス業務に当たっては、三世代家族には老人の問題の援助や育児上の意識の差を緩めるような家族ぐるみの援助、指導を、核家族には同じ立場の親たちのグループづくりや声掛け運動等地域ぐるみの援助を心がける必要があろう。

< 5 > 家庭は夫婦中心か子供中心か

実際の家庭生活を顧みて、「あなたの家庭生活は夫婦と子供のどちらを中心に営まれているか」を質問した。回答は次の3つからの選択である。

- ① どちらかといえば子供中心
- ② どちらかといえば夫婦中心
- ③ 一概にいえない

1. 共働き家庭についての集計(表16、17)

父母別に意識を検討したが、いずれも「子供中心」が多く、自営業は30%台(父親: 34.9%、母親: 36.4%)、母親の就業状況が正規職員、パートの場合は40%台であった(それぞれ、父親: 47.9、41.8%、母親: 47.7、48.6%)。夫婦中心は10%台である。「一概にいえない」も40%台を占める。母親の就労状況別には、父親、母親いずれの意見によっても、自営業が正規職員、パートの勤務群に比して「夫婦中心」が多かった

(それぞれ順に、父親：15.9、11.6、10.4%、母親：15.2、10.7、11.0%)。

自営業は父母とも自宅にすることが多いので、子供と一緒にいられる時間が長く、一方夫婦で協力して仕事をすることが多いので、子供中心よりも夫婦中心の意識が強いものかと考えられる。

2. 父母別、末子の年齢別の集計(表18)

全体としてみると「子ども中心」が最も多く46.7%、次いで「一概にいけない」が41.2%で、「夫婦中心」は11.7%で少なかった。父母別では「子ども中心」が父45.0%、母48.4%で母にやや多かった。しかし、末子の年齢別にみると、末子の年齢が小さいほど「子ども中心」が多く、大きくなると減る。逆に「夫婦中心」は子どもが大きくなると増え、「一概にいけない」も増えてくる。これは当然のことであろうが、特に母親にとってはやはり子ども中心であり、夫婦中心の考えの家庭は比較的少ないという実態が知られた。ただし、末子が6歳未満の母親で「夫婦中心」と答えた母親が7.1%あったことを、少ないと見るか多いと見るかは議論のあるところかも知れない。

<6>夕食のとり方

最近、家庭での家族関係をみる場面設定の一つとして、子供と夕食を共にするかどうかが目まぐるしく変わっている。次で5項目の一つの選択である。

あなたは普段、お子さんと一緒に夕食をとることが1週間に何回くらいありますか。

①毎日、②4日以上、③2～3日くらい、④1日だけ、⑤ほとんどない

1. 市郡別・父母別

毎日子供と一緒に夕食をとるものの割合は、市部：55.7% (大都市52.9%、中都市54.9%、その他58.0%)、郡部：60.5%と、郡部に多かった。一方、「ほとんどなし」という回答は、多くはないが市部4.5%、郡部4.1%にみられた。

父母別に検討すると、父親より母親の方が夕食を子どもと一緒にとる割合が各地とも高い。父においては毎日一緒に食べる者は市部の方が郡部よりはるかに少なく、市部の規模別では大都市群が最も少ない。母親においては市郡間での差は少なく、市部の規模による差も少ない。

2. 共働き家庭における集計(表19、20)

共働きで子供と夕食をとる回数は、父親は市部より

郡部、核家族より三世代家族に多い。母親は市群別、世帯構造別に差が見られない。すなわち、

週4日以上：父親：市部57.7%、郡部59.6%、核家族59.6%、三世代60.8%
母親：市部87.9%、郡部90.1%、核家族88.9%、三世代87.9%
週1日以下：父親：市部17.3%、郡部13.2%、核家族16.0%、三世代17.2%
母親：市部4.5%、郡部3.6%、核家族4.0%、三世代4.5%

働く母親は子どもと一緒に食事をするよう努めているが、父親は仕事第一という勤務形態をとっている者が相変わらず多いというわが国の現状を、ここでもよく示しているといえよう。

3. 末子の年齢別にみた集計(表21)

全体として週4日以上(毎日を含む)子どもと夕食を共にしている親は、父親56.7%、母親89.8%で、とくに末子が6歳未満の場合は父親は55.6%だが、母親は93.9%に達する。子どもが18歳以上になると、父親55.4%、母親75.7%であった。つまり父親は子どもの年齢に関わりなく仕事によって夕食が共にできる者が決ってしまうが、母親は子どもが大きくなるまでは夕食までに帰宅する者が大部分であるという実態であろう。

<7>父親、母親の理想像(表22、23)

理想的な父親像、母親像について夫婦がそれぞれどのように考えているかをたずねた質問で、以下の5項目から選んで貰ったものである。

- ① 子どもが一人前の社会人になれるようにきちんとしつけていく。
- ② 自分の生き方を示していく。
- ③ より多く人生経験を積んだ者として相談相手になる。
- ④ 子どもを信頼して干渉しない。
- ⑤ 一人の人間として友達のようにつきあう。

末子の年齢別に父母それぞれの考えをみると、父親が父親の理想像としてあげた第1位は①の「しつけ」で38.6%であり、母親側の30.7%より高い。末子の年齢による差はほとんどなく、18歳を越えると少し減る程度である。2位は③の「相談相手」24.0%であった。5位ではあるが特徴の見られたのは、④の「干渉しない」で、父親に多く、子どもが大きくなるほど高

率になっていた。母親の考える理想の父親像の第1位は「相談相手」33.2%で、子どもが小さいほどそのように考える率が高く、6歳未満で35.0%、18歳以上で28.8%であった。

母親の理想像の第1位は、父母とも①の「しつけ」であり、父親53.3%、母親54.4%であった。2位は③の「相談相手」だが率は低く、父親17.2%、母親18.1%であった。3位の「友達のようにつきあう」は父親8.8%、母親12.4%であったが、子どもの年齢とともに父母ともに減少していた。

父母による父親像のニュアンスが微妙に変わること、親像として子どものしつけを重要視していることが注目される。

<8> 仕事と家庭の両立 (表24、25)

仕事を持つ親たちは仕事と家庭の両立に悩むことが多いが、その実状について次の質問による調査が行われた。

- ① 仕事が忙しすぎて家庭での役割を果たしていない。
- ② 仕事は忙しいが家庭での役割を果たすよう努力している。
- ③ 仕事と家庭をうまく両立させている。
- ④ 家庭での役割を果たすため仕事が多少犠牲になっている。

父親が就労している家庭でみると、仕事と家庭の「両立の努力をしている」親たちが過半数を占め57.3% (父親60.0%、母親54.2%) であり、「両立させている」17.2%、「仕事为主」13.3%が続ぎ、「仕事を犠牲にしている」は1.3%とごく少ない。末子の年齢別にみてもこの率には大差なく、「両立の努力」は子どもが大きくなると多少減り、「両立させている」が子どもの年齢と共に多少増える程度である。子どもの人数との関係も検討したが関連はなかった。

母親が就労している家庭でも、「両立の努力をしている」親たちが50.1% (父親43.0%、母親56.0%)、「両立させている」が27.3%と続き、「仕事を犠牲」6.2%、「仕事为主」3.6%は少なかった。父母間の差は「両立の努力」で母親に多かった以外は差を認めなかった。

以上のように、親たちが仕事と家庭の両立に向けて精一杯努力している実状がわかる。この場合家庭を留守にしがちな父親がことのほか仕事と家庭の両立に努

力していると答えていることは注目すべきだろう。

<9> 婦人の職場進出についての考え方

婦人の職場進出に伴う意識について、「婦人の職場進出に伴い、両親とも働く家庭が増えています。あなたはこのことについてどう思いますか」と質問し、次の3つの中から回答を選択して貰った。

- ① 保育施設の充実
- ② 育児休業制度の充実
- ③ いずれかの親は家にいる

1. 共働きの家庭における集計 (表26、27)

母親の就労状態別に父母の考えを訊ねた。

父親の考えは、妻が正規職員の場合は「育児休業」の要望が1位(39.8%)であったが、パートと自営業の場合は「いずれかの親が家庭に」の要望が1位であった(それぞれ、38.8%、47.2%)。

母親の考えは、正規職員の場合は「育児休業」が過半数に達し(50.3%)、パートも「育児休業」が1位(47.3%)であったが、自営業では「いずれかの親」が1位を占めた(42.1%)。

親達は可能な限り自分で子育てをしたい要望を強く持っており、とくに父親は母親よりも「いずれかの親は家に」と望む者が多く、仕事を指向する母親とは別に母親に家庭にとどまって欲しい望みを持つ傾向をうかがわせる。一方、外に仕事を持つ者は父母とも育児休業制度を要望しており、とくに母親で強い。こうした育児環境の整備が行われれば、母親はすすんで育児を自ら行う意志のあることがわかる。

2. 末子の年齢別にみた集計 (表28)

父母合計では「いずれかの親が家庭に」が38.5%と1位であったが、この場合父親は43.6%、母親は33.5%と差があることは上述と同じ父親の願望として注目される。これは末子の年齢6歳以下で父親40.1%、母親27.5%と差が大きく、子どもの年齢が上がると差は縮まる。一方、「育児休業制度」の要望は父母合計では37.2% (父親32.1%、母親42.1%) と2位であったが、母親の要望としてはトップであること、末子の年齢6歳以下では41.8% (父親35.6%、母親48.0%) と父母ともに要求が大きいことは注目すべきである。仕事を持つ両親にとって育児休業制度が切実な要望であることを強調したい。

<10> 今後の家庭の予想

今後のわが国の社会の変化と関連して、家庭の変化についての予想を質問した。設問は、一般的には今後、家庭はどのようになっていくと思いますかというものであり、回答は次の7つから重複して選択された。

- ①家事の外部化はますます進む
- ②育児の外部化はますます進む
- ③離婚は増える
- ④子供を持つ母親の就労は増える。
- ⑤家族構成員がそれぞれ個人的に行動することが多くなる
- ⑥家族間の精神的絆の重要性が見直される
- ⑦しつけについての不安、混乱が増大する

1. 市郡別

各質問について「そう思う」と回答したものの割合は、「しつけの不安増大」を除く全項目において、市部の方が郡部より多かったが、有意差はない。すなわち、「家事の外部化」が最も低率で、市部51.0%、郡部46.5%、「母親の就労増加」が最高で、市部87.3%、郡部86.5%であった。市部の中での差もないが、「離婚の増加」のみが大都市に多い傾向がみられた。わが国民の考え方に地域性の少ない証左であろう。

2. 共働き、専業主婦別母親の意見

共働きで仕事を持つ母親と、専業主婦である母親とに分けて将来の家庭の変化についての意見を聞いたところ、すべての項目について過半数が「そう思う」と答えていたが、共働きと専業主婦との間で差が見られたのは2項目であった。

「育児の外部化が進む」：共働き55.3%、専業主婦54.8%、で大差はない。

「離婚が増える」：共働き50.8%、専業主婦53.6%、でこれも大差はないが、子供を持つ母親の就労が増えることを両群とも89%が予想していることと考え合わせ、専業主婦の方が離婚の増加をより考えているのかも知れない。

共働きの母親について、世帯構造別に検討すると、「家事の外部化進む」（核家族52.5%、三世代49.5%）と、「離婚が増加」（核家族51.9%、三世代48.9%）が核家族に多かったが大差ではない。

市郡別にみると、「しつけの不安増大」以外の全項目で、市部で「そう思う」母親が高率であった。大差ではないが、「わからない」との答えの率が一般に郡部に高いことと考え合わせ、都市部在住者の方が今後の社会の趨勢に関心が高いのであろう。

3. 末子の年齢別にみた集計

以上の傾向は子どもの年齢別には大差はない。「家族構成員が個人的行動をとることが増える」でそう思う親が子どもの年齢が大きくなると増加、「家族間の精神的絆の重要性増す」と「しつけの不安、混乱が増す」では子どもの年齢が上がると減少傾向、が見られた程度である。いずれも理解できる回答といえよう。

<11> 家庭の役割について

「一般的に家庭にとって、大切な役割を3つ選んで下さい」という家庭の役割についての意識を問う設問については以下の10の回答が用意されている。

- ①安らぎやくつろぎを与えること
- ②家族がお互いに助け合っていくこと
- ③子どもを産んで、次の世代をつくること
- ④子どもを心身ともに元気に育てること
- ⑤子どものしつけなど、社会的ルールを身につけさせること
- ⑥親の生活の知恵や知識を次の世代へつたえていくこと
- ⑦高齢化した家族を保護し、介護すること
- ⑧生計のための収入を得ること
- ⑨食事の世話や洗濯など、清潔で快適な生活の場を提供すること
- ⑩遊び・レジャーを通じて生活を楽しむこと

1. 共働きの家庭についての集計

共働きの家庭で、母親の就労状況別に、父母の意識をまとめると、以下のごとくであった。

全体として過半数の父母が選んだのは、②の「助け合い」（父親68.0%、母親71.9%）、①の「安らぎ」（父親63.6%、母親66.8%）であった。逆に最も少なかったのは、「次の世代をつくる」（父親4.9%、母親3.6%）であった。

母親の就労状況別には父母の傾向は同じである。正規職員は他の群より「家族の助け合い」が多く、「生計の収入」は少ない。パートは「子どものしつけ」が他の2群より多く、「親の生活を伝える」が少ない。自営業は「親の生活を伝える」「老人の介護」が他の群より多く、「安らぎ」が他の2群より少ない。これらはいずれも大差ではないが、外で仕事を持つ親と、子にあとを継がせたい意向があるであろう自営業との間の微妙な差が現われているものであろう。

父親と母親を比較すると、これも各項目とも大差は

なく、夫婦の意識はよく一致していると言えるが、多少とも差のあるものを見ると、父親に多いのは「生計収入」「レジャー」「次の世代をつくる」(それぞれ、20.2%、12.6%、4.9%)であり、母親の方が多いのは、「助け合い」「安らぎ」「子どもを元気に育てる」「食事の世話など」(それぞれ、71.9%、66.8%、48.8%、11.2%)であった。

2. 末子の年齢別にみた集計

子どもの年齢による差の著しい項目はなかったが、傾向としては、子どもの年齢が大きくなると増加するものとして「親の生活を伝える」「老人の介護」「生計収入」があり、逆に減少するものとしては「安らぎ」「レジャー」であった。他は変化が見られなかった。

第2部 両親のいる家庭とひとり親家庭の比較

以下においては、両親のいる家庭とひとり親家庭の比較において検討を行った成績を述べる。ひとり親家庭は下記の母子世帯と父子世帯の合計をいい、両親のいる家庭はその他(一般世帯)に該当する。また統計的検定には養育者世帯を含まないこととし、統計上有意な場合に、**は～1%の危険率、*は5%の危険率である。

母子世帯	1755 (9.3%)	<100.0%>
核家族	1398 (7.4%)	< 79.7%>
3世代家族	357 (1.9%)	< 20.3%>
父子世帯	358 (1.9%)	<100.0%>
核家族	204 (1.1%)	< 57.0%>
3世代家族	154 (0.8%)	< 43.0%>
養育者世帯	97 (0.5%)	
その他(一般世帯)	16716 (88.4%)	
計	18914 (100.0%)	

1 末子の年齢(表29)

末子の年齢は、世帯類型別にきわめて異なり、「一般」世帯(以下世帯を略)の末子は0～6歳未満が34.7%であるのに対し、ひとり親の割合は12.9%—「母子」13.7%、「父子」9.2%—と、非常に低い。<**>

12歳以上の割合は、「一般」が37.9%であるのに対し、ひとり親が58.8%—「母子」58.0%、「父子」62.5%—と高い。<**>

またひとり親家庭でも「父子」の方が「母子」より

も末子の年齢がやや高い傾向がある。<*>

離婚、別居、死別等の背景が一般の世帯の子どもの年齢と比較して、高くなっている結果と結びついている。

2 配偶者なしの理由(表30)

「母子」、「父子」とともに、生別の割合が高い。しかし世帯構造別にみると、生別の割合は「母子」、「父子」で異なる。「母子」では、核家族により多く<**>、「父子」では3世代により多い<**>。

ひとり親家庭においては、母は離婚、別居後も3世代となり難い事情が、父は離婚後も実家との関係を持ちやすい事情が、それぞれより多くみられると言える。

3 健康状態(表31)

健康状態は、世帯類型別に異なり、健康状態が良好な割合は「一般」が76.3%と高いのに対し、ひとり親は51.9%と低い。<**>ひとり親家庭でも、「父子」が64.6%であるのに対し、「母子」は49.3%と、特に「母子」が低い。<**>

「母子」のうち、核家族(46.7%)が3世代(59.7%)よりも非常に低くなっている。<**>

「母子」では、就労している割合が高いので(次の4を参照)、特に核家族の場合、母は疲れがよりたまりやすいことを示唆している。

4 母の就労状況(表32)

母の就労状況は、世帯類型別に異なり、「母子」が83.6%と高く、「一般」の57.6%と対比的である。<**>

正規職・従業員及びパートの割合を比較すると、正規は「母子」(37.6%)が「一般」(16.3%)より非常に高く<**>、パートも「母子」(26.7%)が「一般」(21.0%)より高い<**>。自営業は、「一般」が13.3%と、「母子」の10.3%より高くなっている。<**>

「母子」では、正規の職の割合は特に3世代で40.9%と高く、また核家族ではパートの割合が28.4%と高い。<**>

5 家庭に関する悩みごと(表33)

悩みごとの有無及びその内容は、世帯類型別に異なり、悩みごとを持つ割合は「一般」(40.8%)と比較して、ひとり親が60.2%—「母子」60.7%、「父子」57.8%—と、非常に高い。<*> とくに、子育てと仕事等の両立の難しさ、子育ての自信のなさ等の割合が高

い。

ひとり親家庭でも、その内容にやや相違がみられ、家族関係の悩み、老親、病人がいることの悩みは、「父子」により高い割合でみられる。<*> また、世帯構造によっても異なり、3世代では、「母子」、「父子」とともに老親、病人がいることの悩みが核家族よりも著しく高い。核家族では、「母子」、「父子」とともに近所づきあいのなさ、そして「父子」は家族関係の悩みがより高い割合でみられる。<*>

高齢者などをかかえる家庭の持つ悩みは、世帯類型にかかわらず共通であるが、核家族のひとり親家庭の近隣との関係が希薄になりがちなる悩みも特徴として指摘される。

6 子育てに関する悩みごと（表34）

悩みごとの有無及びその内容は、世帯類型別に異なり悩みごとを持つ割合は「一般」の62.8%に比較し、ひとり親は70.3%—「母子」（70.5%）、「父子」（69.6%）と、より高い割合でみられる。<*> とくに勉強等に関すること、非行等に関することの悩みの割合が高い。

7 子育ての条件（表35）

子育ての条件は、世帯類型別に異なり、家族の協力は「一般」では49.7%と高いが、一人親では27.4%と低い。<*> そして、「父子」（31.8%）よりも「母子」（26.5%）がさらに低い。<*> 逆に、子供との時間はひとり親では49.8%と高いが、「一般」では37.1%である。<*> また、近所・親戚等と相談もひとり親（13.2%）の方が「一般」（7.2%）より高い割合でみられる。<*>

ひとり親家庭でも相違がみられ、上述のように家族に協力は「父子」の方が高い。また、子供との時間及び近所・親戚等と相談は「母子」に高い割合でみられる。<*>

また「母子」では、上記の傾向は核家族に一層高い割合でみられる。とくに家族の協力は、3世代が42.9%と高いが、核家族では、22.3%ときわめて低くなっている。<*>

「一般」よりも、また3世代の「母子」、「父子」よりも核家族の「母子」、「父子」は、子供との接触や近隣、親戚の人々との接触をより必要としていることがうかがえる。

8 望ましい家庭のイメージ（表36）

望ましい家庭のイメージは、世帯類型別に異なり、保養型は「一般」が39.7%を占めるのに対し、ひとり親では26.0%と低い。<*> 啓発型も「一般」の方が高いが<*>、相互援助型はひとり親が48.0%を占めるのに対し、「一般」は36.9%である。<*> 友達型もひとり親の方が高い。<*>

ひとり親家庭でも、相互援助型は「母子」がより高く共同生活型は「父子」がより高い。<*>

ひとり親家庭が、他の世帯と比較して相互の支えあいを必要とする余裕の少なさを擁していることがうかがえる。

9 望ましい家庭のイメージの実現度（表37）

望ましい家庭のイメージの実現度は、世帯類型別に異なり、「一般」が76.0%と高いが、ひとり親では61.9%と低下している。<*> ひとり親家庭でも相違がみられ、「母子」の63.3%に対し、「父子」では54.8%とさらに低い。<*>

また「母子」では、世帯構造でさらに異なり、核家族（68.6%）より3世代（62.0%）が低くなっている。<*> 上述の傾向は、ここでも明きらかとなっており「父子」では保養は言うまでもなく、相互援助についても辛うじて半数が実現しているという状況である。

10 理想的な父親像（表38）

理想的な父親像を、「一般」と「父子」で比較すると、非常に相違している。「父子」では、きちんとしつけるが39.1%、干渉しないが16.2%と、「一般」の各35.2%、7.7%より高い割合でみられる。<きちんとし、干渉しない*> 一方、自分の生き方を示すが10.3%、相談相手になるが18.7%と、「一般」の各14.1%、29.0%より低い割合となっている。<自分の生き方*、相談相手*>

ひとり親家庭では、しつけ、相談という上下関係的な機能に合わせ、上述1の末子の年齢とも関係し、相互対等関係の重要性がうかがわれる。なお「母子」では、現在父親が不在のため、回答不詳も多くみられたので、分析から除外した。

11 理想的な父親像の実現度（表39）

理想的な父親像の実現度を、「一般」と「父子」で比較すると、「一般」が73.4%と高いが、「父子」では57.0%と低く、実現度においても相違している。<*>

「父子」の理想的父親像の実現度は低く、先の1.8.

9との関連性も併せて考慮すべきことと考えられる。

1.2 理想的な母親像(表40)

理想的な母親像を、「一般」と「母子」で比較すると、やや相違している。きちんとしつけるが、「一般」では54.6%であるのに対し、「母子」では44.6%と低い。<*>友達のようにつきあうが、「一般」の10.4%に対し、「母子」では16.2%と高い。<*>

1.0と比較すると、いずれの世帯も母の方が父よりもしつけの役割が重視されているが、「母子」は「一般」よりも一層相互対等の関係が重視されている。なお「父子」では、現在母親が不在のため、回答不詳も多くみられたので、分析から除外した。

1.3 理想的な母親像の実現度(表41)

理想的な母親像の実現度を、「一般」と「母子」で比較すると、「一般」が73.0%であるのに対し、「母子」は60.6%と低くなっている。<*>

「母子」では、世帯構造でも相違がみられ、3世代の64.7%に対し、核家族では59.5%とさらに低くなっている。<*>

「母子」の理想的母親像の実現度は1.1の父のそれと同じように低く、先の1, 8, 9との関連も併せて考慮すべきことと考えられる。

1.4 就労父親の家庭との両立度(表42)

就労父親の家庭との両立度は、「一般」と「父子」で異なる。努力しているがいずれも半数を超えているものの、両立させていると考えている割合は、「一般」の17.3%に対し、「父子」は13.1%と低い。<*>したがって、家庭で役割を果たしていないと考えている割合は、「一般」の14.8%に対し、「父子」は19.3%と高く<*>、仕事が多少犠牲になっていると考えている割合も、「一般」ではわずか1.5%であるのに対し、「父子」は7.1%と高い。<*>

父子家庭の、両立度の低さが特徴的である。

1.5 就労母親の家庭との両立度(表43)

就労母親の家庭との両立度は、「一般」と「母子」で異なる。努力していると考えている割合が、「母子」では62.4%と非常に高いのに対し、「一般」では54.9%である。<*>一方、両立させていると考えている割合は、「一般」では27.2%となっているのに対し、「母子」では17.3%と低くなっている。<*>また、役割を果たしていないと考えている割合も、「母子」

が8.2%と、「一般」の3.4%よりも高い。<*>

母子家庭の両立度の低さが特徴的であり、上記1.4の傾向を併せ考えると、ひとり親家庭における両立への努力とその困難性がうかがわれる。

1.6 望ましい近所付き合い(表44)

近所付き合いのあり方は、世帯類型別に異なり、「一般」では、活発な交流が13.4%、ほどほどの交流が73.5%と、約9割に近い家庭が望んでいるのに対し、ひとり親では、各8.8%、64.3%と、交流の望む割合は7割を超える程度である。<*>必要最小限がいいとする割合は、「一般」の12.6%に対し、ひとり親が23.5%と高い。<*>

ひとり親でも、活発な交流を望む割合は、「父子」の13.4%に対し、「母子」では7.9%と低く、母子家庭では近所との交流を望む割合は非常に低くなっている。<*>

この傾向は、世帯構造によってさらに明瞭になる。3世代の場合には、「父子」では活発な交流を望む割合が20.1%と、核家族(8.3%)よりさらに高くなり<*>、「母子」では、必要最小限がいいとする割合が、19.3%と、核家族(26.6%)よりさらに低くなる。<*>

3世代世帯の方が近所付き合いに積極的であることが明らかになったが、しかしひとり親家庭とりわけ母子家庭のやや閉鎖的な傾向もまた、特徴として示されている。

1.7 近所付き合いの実態(表45)

近所付き合いの実態は、世帯類型別に異なり、上記1.6の近所付き合いのあり方とほぼ対応している。親しく付き合っている割合は、「一般」の26.6%と比較して、ひとり親は17.2%と低い。<*>逆に、挨拶する程度は「一般」の17.1%に対し、ひとり親は27.1%と高い。<*>

この傾向は、「母子」よりも「父子」に一層明瞭にみられる。<*>

また、世帯構造により上述の傾向はさらに顕著である。親しくつきあっている割合は、「父子」では3世代の24.0%に対し、核家族は9.3%<*>であり、「母子」では3世代の25.2%に対し、核家族は15.6%<*>である。

上記1.6と対応した近所付き合いの実態がみられるがひとり親家庭では、特に核家族の閉鎖的な傾向があらためて示されている。

18 家庭の役割（表46）

家庭の役割に対する考え方は、世帯類型別に異なり、「一般」では、安らぎやくつろぎ<*>、遊び・レジャー<*>が、ひとり親より高い割合でみられ、ひとり親では、家族がお互い助けあう<*>、生計のための収入確保<*>が、「一般」より高い割合でみられる。

世帯構造別では、「父子」において相違がみられた。核家族の方がやや「一般」に近い傾向がみられた。

<*>

いずれの世帯も、家族がお互いに助け合う役割を高い割合で重視しているが、その他の役割に関しては、特にひとり親家庭の生活の切実感が、ゆとりやくつろぎのある家庭を重視する割合を低めざるを得ない実情がうかがわれた。

19 総合的まとめ

世帯類型別にみると、多方面にわたって両親のいる家庭（以下一般家庭）とひとり親家庭とで生活状況に相違がみられることが、あらためて明らかになった。

ひとり親家庭に関しては、今回の調査からもあらためていくつかの重要な問題点、課題が示された。ひとり親家庭は、子供が出生した時期は一般家庭よりも平均して旧く、子供の年齢はむしろ高い。したがって、学童や中学生以上の子供をかかえた家庭の状況が反映されていることも考慮する必要がある。

今回の調査結果からも、総体的に一般家庭よりも不利な条件を抱えていることが浮き彫りになったが、特に母子家庭では、母の就労の必要性が高いばかりではなく、夫と別れたあと、実家に戻らずに核家族として自立しなければならない場合には、父子家庭よりも一層不利な条件を抱えることと結び付いているように思われた。健康面をみても、父子家庭の父よりも母子家庭の母に、疲れやすく、良好でない傾向がより強くみられる。

しかし、ひとり親家庭であることによる不利な状況は母子、父子共通にみられる点が多い。夫婦、父母の協力が不可能なことが家庭、社会両生活面での余裕の無さをもたらしやすく、子育てと仕事の両立の難しさ、子育ての不安や自信の無さが、核家族、3世代家族にかかわらず調査結果からも明らかになっている。ひとり親家庭では、先に触れた子どもの年齢とも関連して、親の役割や理想像としては、しつけのみならず親子が支えあう、相互対等の関係が重視されている。同時に、一般家庭と比較して、ゆとりのある、近隣とも積極的にかかわりあう意識が高まりにくい背景が示されている。とりわけ、核家族の母子家庭は、これらの状況、背景をより多く抱えている。

今後の家族福祉、家族支援のあり方は、これらの結果をふまえたサポート体制を欠かすことができないであろう。

表1 世帯構造別にみた「家庭に関する悩みごと」の状況

	実数	家族関係	祖父母等 親戚関係	近所つき 合もない	育児自信 がない	老親病人 がいる	育児と仕 事の両立	その他	特に悩み なし
核家族	(21928)	14.1	5.6	2.2	9.0	4.4	15.7	6.1	62.1
三世帯	(9877)	15.9	5.6	1.4	9.4	15.7	20.1	6.2	52.6
合計	(31805)	14.7	5.6	2.0	9.2	7.9	17.1	6.1	59.2

注：表中の数字は%

表2 市部、郡部別対象数

11大都市	5451人	16.0%
中都市	10594人	31.1%
小都市	10221人	30.0%
市部合計	26166人	77.0%
郡部	7788人	22.9%

表3 市部郡部別、高齢者のいる家庭の割合

11大都市	16.0%
中都市	16.9%
小都市	24.4%
市部合計	23.7%
郡部	37.3%

表4 市部郡部別にみた「家庭における悩みごと」の状況

	市部	郡部
悩みあり(総数)	41.2%	44.9%
内訳：家族関係	14.9	15.8
祖父母関係	5.7	5.6
つきあい	2.3	2.0
子育て	9.4	10.6
老親病人	7.8	8.8
育児と両立	17.2	21.5

表5 共働きの母親について「家庭に関する悩みごと」の状況(市、郡別)

	市部	郡部
共働き母親(総数：8,445人)	6035	2410
悩み有り(以下%)	46.8	49.8
1.子どもや家族のふれあいの時間がない等の家族関係	15.9	15.8
2.祖父母など親戚関係が十分でない	5.3	6.1
3.親類や近所付き合いもない	1.6	1.2
4.子どもの育て方に自信が持てない	10.9	11.9
5.老親、病人が家族にいる	8.1	8.1
6.育児と仕事や社会参加との両立が難しい	24.1	28.4
7.その他	6.3	6.3
悩み持たない	53.2	50.2

p<0.05

表6 共働きの母親について「家庭に関する悩みごと」の状況(世帯構造別)

	核家族	三世帯
共働き母親(総数：8,445人)	5264	3181
悩み有り(以下%)	43.9	53.8
1.子どもや家族のふれあいの時間がない等の家族関係	15.2	16.9
2.祖父母など親戚関係が十分でない	5.4	5.7
3.親類や近所付き合いもない	1.8	0.9
4.子どもの育て方に自信が持てない	10.8	11.8
5.老親、病人が家族にいる	4.0	15.0
6.育児と仕事や社会参加との両立が難しい	23.9	27.7
7.その他	6.1	6.6
悩み持たない	56.1	46.2

p<0.001

平山他：『子どもと家庭に関する実態調査』のクロス分析による考察

表7 「家庭に関する悩みごと」についての父母のギャップ

	父に悩み有	母に悩み有	無母悩み無%	母に悩み有	父に悩み無	父悩み無%
悩み有の合計	4897	9194		5863	10160	
以下悩み内容の項目別						
ふれあい時間がない等の家族関係	3802	574	15.1	3235	526	16.3
祖父母など親戚関係	1387	213	15.4	1438	230	16.0
親類・近所付き合いがない	631	84	13.3	461	75	16.3
子育てに自信がない	1680	170	10.1	2734	612	22.4
老親・病人がいる	1871	227	12.1	1895	277	14.6
育児・社会参加と仕事との両立困難	3600	641	17.8	4003	1008	25.2
その他	1183	242	20.5	1354	389	28.7

表8 共働きの母親について「育児についての悩みごと」の状況（市郡別）

	市部	郡部
共働き母親（総数：8,445人）	6035	2410
悩み有り（以下%）	67.9	70.9
1.しつけに関する事	36.9	40.0
2.健康に関する事	22.4	21.2
3.勉強や進学に関する事	44.0	43.2
4.友人に関する事	12.0	13.6
5.心身の発達に関する事	3.3	3.4
6.非行、登校拒否、性に関する事	6.1	6.7
7.その他	2.4	2.8
悩み特に無し	32.1	29.1

表9 「育児についての悩みごと」の状況（世帯構造別）

	核家族	三世帯家族
共働き母親（総数：8,445人）	5264	3181
悩み有り（以下%）	66.9	71.9
1.しつけに関する事	35.0	42.5
2.健康に関する事	20.5	24.4
3.勉強や進学に関する事	44.6	42.4
4.友人に関する事	12.0	13.1
5.心身の発達に関する事	3.3	3.5
6.非行、登校拒否、性に関する事	6.0	6.8
7.その他	2.6	2.4
悩み特に無し	33.1	28.1

表10 世帯構造別にみた「望ましい家庭のイメージ」とその実現度

	総数	保養型	啓発型	共同生活型	友達型	相互援助型	不詳
核家族	21928.0	40.4	5.4	6.9	11.3	35.3	0.7
三世帯家族	9877.0	38.1	4.2	7.4	9.6	40.3	0.4
その実現度		実現している	まあ実現	余りしてない	実現してない	不詳	
核家族		10.0	67.0	18.6	3.6	0.8	
三世帯家族		7.9	65.9	21.2	4.4	0.6	

表13 末子の年齢別、父母別に見た家庭のイメージの状況

末子の年齢 (実数)	保護型 (4931)		啓発型 (580)		共同生活型 (629)		友達型 (1347)		相互援助型 (3757)		不詳 (59)		総計 (11303)	
	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母
0~6歳未満	44.1	43.1	6.4	3.8	7.0	4.2	11.5	12.4	30.4	36.1	0.6	0.4	100.0	100.0
6~12歳未満	37.7	38.7	6.6	3.8	8.1	5.3	11.1	10.8	35.7	41.0	0.8	0.4	100.0	100.0
12~15歳未満	35.7	36.8	6.3	3.1	8.1	5.9	10.7	11.1	38.3	42.2	0.9	0.8	100.0	100.0
15~18歳未満	34.7	35.5	5.7	3.0	11.1	8.0	8.8	10.2	38.8	42.6	0.8	0.7	100.0	100.0
18~20歳未満	32.0	34.6	5.1	2.5	12.1	7.7	11.1	11.7	39.0	42.2	0.5	1.3	100.0	100.0
合計	38.7	39.0	6.3	3.5	8.5	5.6	10.8	11.3	35.0	39.9	0.7	0.6	100.0	100.0

注：表中の数字は%

表11 共働き家庭における「望ましい家庭のイメージ」(父親の意見)

母親職業	正規職員	パート等	自営業	その他	計
実数	2423	3095	1980	947	
保護型	35.9	36.6	33.4	35.9	
啓発型	6.1	6.8	5.1	4.9	
共同生活型	8.8	9.6	8.6	7.5	
友達型	10.3	10.4	11.2	9.7	
相互援助型	38.6	36.1	41.3	41.3	
不詳	0.3	0.5	0.4	0.7	

p<0.05

表12 共働き家庭における「望ましい家庭のイメージ」(母親の意見)

母親職業	正規職員	パート等	自営業	その他	計
実数	2423	3095	1980	947	
保護型	36.5	40.5	33.7	38.0	
啓発型	4.5	2.5	3.3	2.6	
共同生活型	6.2	6.2	6.0	6.7	
友達型	9.1	10.8	11.2	9.9	
相互援助型	43.3	39.6	45.3	42.6	
不詳	0.4	0.4	0.5	0.2	

p<0.001

表14 世帯構造別に見た「望ましい近所付き合い」の状況
(付き合いの程度)

	(実数)	活発な 交流	ほとんど必要 の交流	最小限
核家族	(21928)	11.7	74.4	13.3
三世帯家族	(9877)	17.1	71.6	11.0

注：表中の数字は%

表15 世帯構造別に見た「望ましい近所付き合い」の状況
(付き合い方の実態)

	(実数)	親しい 付き合い 程度	時々話す 程度	挨拶程度	名前も 知らない
核家族	(21928)	25.4	54.8	18.4	0.6
三世帯家	(9877)	29.3	55.7	14.0	0.4

注：表中の数字は%

平山他：『子どもと家庭に関する実態調査』のクロス分析による考察

表16 共働き家庭について「生活は夫婦と子どものどちらが中心か」の状況
(父親について)

母親の就労状況別	正規職員	パート等	自営業	その他
どちらかといえば子ども中心	47.9	41.8	34.9	44.4
どちらかといえば夫婦中心	11.6	10.4	15.9	11.8
一概にはいえない	40.2	47.8	48.9	43.3
不詳	0.3	0.0	0.3	0.5
総数(15,823人)	100.0	100.0	100.0	100.0

注：表中の数字は%

表17 共働き家庭について「生活は夫婦と子どものどちらが中心か」の状況
(母親について)

母親の就労状況別	正規職員	パート等	自営業	その他
どちらかといえば子ども中心	47.7	48.6	36.4	43.5
どちらかといえば夫婦中心	10.7	11.0	15.2	11.8
一概にはいえない	41.4	40.1	48.2	44.5
不詳	0.2	0.3	0.2	0.2
総数(15,823人)	100.0	100.0	100.0	100.0

注：表中の数字は%

表18 末子の年齢別、父母別に見た生活の中心の状況

末子の年齢・子ども中心・ 夫婦中心・一概にはいえない・ 不詳・総計	子ども中心		夫婦中心		一概にはいえない		不詳		総計	
	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親
0-6歳未満	55.1	59.6	9.0	7.1	35.4	33.1	0.5	0.2	100.0	100.0
6-12歳	44.1	47.0	13.4	12.4	42.0	40.5	0.5	0.2	100.0	100.0
12-15歳	40.1	48.3	14.3	12.9	45.1	43.4	0.6	0.5	100.0	100.0
15-18歳	35.7	38.2	15.0	12.3	48.7	49.0	0.5	0.5	100.0	100.0
18-20歳	30.9	32.3	16.3	15.5	52.3	51.8	0.5	0.4	100.0	100.0
不詳	38.5	61.5	23.1	23.1	38.5	15.4	-	-	100.0	100.0
合計	45.0	48.4	12.5	10.8	42.0	40.5	0.5	0.3	100.0	100.0

注：表中の数字は%

表19 共働き家庭で子どもと夕食をとる回数
(市郡別、世帯構造別：父親について)

	市郡 (6035)	郡部 (2410)	核家族 (5264)	三世帯 (3181)
毎日	34.5	41.4	35.5	38.0
4日以上	23.3	24.5	24.1	22.8
2-3日位	24.6	20.8	24.1	22.5
1日だけ	9.8	7.3	8.9	9.4
殆ど無い	7.5	5.9	7.1	7.0
不詳	0.3	0.1	0.3	0.3

注：表中の数字は%

表20 共働き家庭で子どもと夕食をとる回数
(市郡別、世帯構造別：母親について)

	市郡 (6035)	郡部 (2410)	核家族 (5264)	三世帯 (3181)
毎日	73.6	76.0	74.7	73.6
4日以上	14.4	14.0	14.2	14.2
2-3日位	7.3	6.2	6.8	7.3
1日だけ	2.3	1.7	2.0	2.3
殆ど無い	2.2	1.9	2.0	2.2
不詳	0.2	0.2	0.3	0.4

表2 1) 末子の年齢群別、父母別にみた「子供と夕食を共にする」状況

末子の年齢	毎 日			4日以上			2~3日			1日だけ			ほとんどない			不 詳		
	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母
0~6歳未満	60.7	34.2	87.2	14.1	21.4	6.7	14.8	25.9	3.7	6.5	11.8	1.1	3.4	6.0	0.9	0.5	0.6	0.4
6~12歳未満	58.6	33.8	82.0	16.3	22.5	10.4	14.9	26.0	4.4	6.6	11.5	1.9	3.4	5.8	1.1	0.3	0.4	0.2
12~15歳未満	55.6	35.0	74.7	18.2	22.9	13.9	16.0	25.4	7.2	5.2	9.1	1.7	4.4	7.0	1.9	0.6	0.6	0.6
15~18歳未満	52.7	35.0	68.8	20.3	24.5	16.6	15.8	23.7	8.5	5.2	8.5	2.1	5.5	7.9	3.2	0.5	0.3	0.8
18~20歳未満	43.7	31.0	55.4	22.3	24.4	20.3	19.3	25.9	13.1	4.4	6.1	2.8	9.6	11.8	7.6	0.7	0.7	0.8
不 詳	62.1	42.9	80.0	10.3	14.3	6.7	17.2	26.6	6.7	-	-	-	6.9	7.1	6.7	3.4	7.1	-
総計	49,235	5,644	93,591	5,746	3,745	2,001	5,261	4,225	1,636	2,010	1,711	299	1,490	1,137	353	168	88	80
%	56.7	34.1	78.3	16.9	22.6	11.5	15.5	25.5	6.0	5.9	10.3	1.7	4.4	6.9	2.0	0.5	0.5	0.5

表2 2) 末子の年齢群別、父母別にみた「理想的な父親像」の状況

末子の年齢	子供が一人前の社会人になれるようにきちんとしつけていく			自分の生き方を示していく			より多く人生経験を積んだ者として相談相手になる			子供を信頼して干渉しない			一人の人間として友達のようにつきあう			不 詳		
	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母
0~6歳未満	34.3	38.7	29.9	14.4	14.1	14.6	29.7	24.4	35.0	5.0	6.4	3.5	12.1	13.1	11.0	4.6	3.2	5.9
6~12歳未満	35.9	40.6	31.5	14.3	13.5	14.9	29.3	24.2	34.0	5.9	8.2	3.6	9.8	10.7	9.1	4.9	2.7	6.9
12~15歳未満	34.2	37.9	30.9	14.8	14.6	15.0	28.2	23.6	32.4	8.8	12.4	5.4	8.6	9.2	8.0	5.4	2.2	8.4
15~18歳未満	35.2	38.6	32.0	12.7	12.4	12.9	27.5	23.4	31.2	11.4	15.4	7.7	7.2	7.6	6.8	6.1	2.6	9.4
18~20歳未満	31.0	32.9	29.2	12.9	13.4	12.3	26.3	23.5	28.8	14.3	18.3	10.6	8.2	8.8	7.7	7.3	3.1	11.3
不 詳	27.6	42.9	13.3	13.8	14.3	13.3	24.1	14.3	33.3	10.3	0.0	20.0	13.8	21.4	6.7	10.3	7.1	13.3
総計	1,732	6,394	5,338	4,753	2,272	2,481	9,736	3,971	5,785	2,585	1,676	889	3,340	1,768	1,572	1,784	469	1,315
%	34.6	38.6	30.7	14.0	13.7	14.3	28.7	24.0	33.2	7.6	10.1	5.1	9.8	10.7	9.1	5.3	2.8	7.6

表2 3) 末子の年齢群別、父母別にみた「理想的な母親像」の状況

末子の年齢	子供が一人前の社会人になれるようにきちんとしつけていく			自分の生き方を示していく			より多く人生経験を積んだ者として相談相手になる			子供を信頼して干渉しない			一人の人間として友達のようにつきあう			その他			不 詳		
	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母
0~6歳未満	55.6	54.7	56.6	5.4	5.5	5.4	16.0	16.4	15.7	4.8	4.7	4.8	13.0	10.8	15.0	2.1	2.7	1.6	3.0	5.2	0.8
6~12歳未満	56.8	56.3	57.2	6.1	6.0	6.3	17.5	16.9	18.0	5.2	5.8	4.7	10.1	8.2	11.9	1.4	1.6	1.2	2.9	5.2	0.7
12~15歳未満	52.5	51.9	53.1	6.8	6.5	7.0	18.3	17.6	18.9	7.5	7.8	7.3	9.5	7.5	11.3	1.4	1.8	0.9	4.1	7.0	1.4
15~18歳未満	51.5	51.2	51.7	7.1	6.7	7.3	18.9	18.0	19.8	8.7	9.2	8.2	8.6	7.2	9.9	1.5	1.7	1.2	3.8	6.0	1.7
18~20歳未満	44.2	44.5	43.9	8.2	8.2	8.1	20.8	18.4	23.0	11.7	12.2	11.1	9.3	7.7	10.9	1.5	1.6	1.4	4.3	7.3	1.6
不 詳	37.9	28.6	46.7	6.9	-	13.3	24.1	35.7	13.3	10.3	7.1	13.3	6.9	7.1	6.7	6.9	7.1	6.7	6.9	14.3	-
総計	8,273	8,829	9,444	2,139	1,020	1,119	5,972	2,835	3,137	2,203	1,117	1,686	3,616	1,456	2,160	564	335	229	1,143	958	185
%	53.9	53.3	54.4	6.3	6.2	6.4	17.6	17.1	18.1	6.5	6.7	6.3	10.7	8.8	12.4	1.7	2.0	1.3	3.4	5.8	1.1

表2 4) 末子の年齢群別、父母別にみた「仕事と家庭との両立」状況(父親が労務している家庭について)

末子の年齢	仕事が増えすぎて家庭での役割を果たしていない			仕事は忙しいが家庭での役割も果たすように努力			仕事と家庭をうまく両立させている			家庭での役割をはずすため、仕事が多量にならざるを得ない			その他			不 詳		
	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母
0~6歳未満	12.9	14.2	11.5	59.9	62.5	57.2	15.9	16.1	15.8	1.4	1.8	1.0	3.5	3.7	3.3	6.3	1.7	11.2
6~12歳未満	14.1	16.0	12.0	57.8	60.4	54.9	16.5	18.2	16.8	1.2	1.6	0.8	4.0	4.2	3.7	6.4	1.5	11.7
12~15歳未満	13.6	15.2	11.7	55.3	58.1	52.1	17.4	17.4	17.4	1.4	1.8	0.9	5.3	5.3	5.4	7.0	2.1	12.5
15~18歳未満	12.6	14.1	10.9	55.2	58.5	51.6	19.1	19.0	19.1	1.0	1.3	0.7	4.7	5.3	4.1	7.4	1.8	13.6
18~20歳未満	13.4	14.5	12.2	51.2	54.5	47.4	21.0	21.6	20.4	1.1	1.4	0.8	6.0	6.8	5.1	2.2	1.2	14.1
不 詳	8.0	15.4	-	46.0	61.5	33.3	20.0	15.4	25.0	-	-	-	4.0	-	8.3	20.0	7.7	33.3
総計	4,115	2,404	1,711	17,684	9,700	7,804	5,305	2,775	2,530	389	263	126	1,329	739	590	2,064	276	1,786
%	13.3	14.9	11.6	57.3	60.0	54.2	17.2	17.2	1.3	1.6	0.9	4.3	4.6	4.0	6.7	1.7	12.1	

平山他：『子どもと家庭に関する実態調査』のクロス分析による考察

表25) 末子の年齢群別、父母別にみた「仕事と家庭との両立」状況(母親が就労している家庭について)

末子の年齢	仕事か忙しすぎて 家庭での役割を 果たしていない			仕事は忙しいが 家庭での役割も 果たすように努力			仕事と家庭を うまく両立 させている			家庭での役割をはた すため、仕事が多 量にならなっている			その他			不詳					
	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母			
0～6歳未満	4.0	3.3	4.6	52.6	45.5	59.0	20.7	23.9	17.8	8.7	7.1	10.1	4.3	4.3	4.3	9.7	15.9	4.1			
6～12歳未満	3.6	2.6	4.3	51.1	44.1	56.8	25.9	28.4	23.8	7.0	6.2	7.7	3.8	3.8	3.8	8.7	14.8	3.6			
12～15歳未満	3.9	3.4	4.2	48.2	41.1	54.0	29.9	30.2	29.6	4.6	3.8	5.3	3.7	3.8	3.5	9.7	17.6	3.3			
15～18歳未満	3.2	2.8	3.6	48.5	41.4	54.1	31.6	32.3	31.1	4.9	4.8	5.0	3.3	3.5	3.1	8.5	15.2	3.1			
18～20歳未満	3.1	2.8	3.3	48.1	40.4	54.2	32.7	33.9	31.8	3.7	3.0	4.2	3.6	3.2	3.9	8.8	16.7	2.6			
不詳	-	-	-	40.0	11.1	63.6	30.0	44.4	18.2	-	-	-	10.0	-	18.2	20.0	44.4	-			
総計	実数合計			683	256	427	9,502	3,703	5,799	5,173	2,496	2,677	1,176	465	711	716	329	389	1,724	1,367	357
	%			3.6	3.0	4.1	50.1	43.0	56.0	27.3	29.0	25.8	6.2	5.4	6.9	3.8	3.8	3.8	9.1	15.9	3.4

表26 女性の職場進出に伴う要項事項(父親)

母親の就労状況	正規職員パート等自営業	その他
保育施設の充実	24.5	18.5
育児休業制度充実	39.8	36.2
いずれかの親は家庭に	28.1	38.8
その他	6.8	7.3
不詳	0.8	1.2
実数合計(総数3445)	(2423)	(3095)
	(1980)	(947)

注：表中の数字は%

表27 女性の職場進出に伴う要項事項(母親)

母親の就労状況	正規職員パート等自営業	その他
保育施設の充実	23.6	18.7
育児休業制度充実	50.3	47.3
いずれかの親は家庭に	20.7	26.2
その他	4.8	7.0
不詳	0.8	0.8
実数合計(総数8445)	(2423)	(3095)
	(1980)	(947)

注：表中の数字は%

表28) 末子の年齢群別、父母別にみた「婦人の職場進出に伴う要項」の状況

末子の年齢	保育施設の充実			育児休業制度の充実			いずれかの親は家			その他			不詳					
	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母	総数	父	母			
0～6歳未満	19.3	18.3	20.3	41.8	35.6	48.0	33.8	40.1	27.5	4.2	4.9	3.5	0.9	1.1	0.7			
6～12歳未満	16.1	15.1	17.0	34.2	29.8	38.4	41.9	47.0	37.1	6.6	6.5	6.7	1.1	1.5	0.8			
12～15歳未満	14.1	13.9	14.2	35.1	30.0	39.6	41.2	46.2	36.4	7.7	7.7	7.7	2.0	2.1	1.9			
15～18歳未満	15.8	16.3	15.4	36.1	31.9	39.9	38.9	41.9	36.1	7.3	7.9	6.9	1.9	2.8	1.7			
18～20歳未満	15.2	15.2	15.1	35.0	29.6	40.0	40.0	45.3	35.1	7.2	7.2	7.2	2.7	2.7	2.6			
不詳	24.1	14.3	33.3	24.1	28.6	20.0	37.9	35.7	40.0	6.9	7.1	6.7	6.9	14.3	-			
総計	実数合計			5,671	2,683	2,988	12,629	5,317	7,312	13,041	7,219	5,822	2,089	1,065	1,024	480	268	214
	%			16.7	16.2	17.2	37.2	32.1	42.1	38.5	43.6	33.5	6.2	6.4	5.9	1.4	1.6	1.2

表29 世帯類型別にみた末子の年齢の状況

(%)

	総 数	0～6歳 未 満	6～12歳 未 満	12～15歳 未 満	15～18歳 未 満	18～20歳 未 満	不 詳
総 数	100.0	33.3	27.4	15.7	15.6	3.0	0.09
母子世帯	100.0	13.7	28.1	21.1	24.0	12.9	0.1
核家族	100.0	12.5	27.8	21.0	24.7	13.9	0.1
三世帯家族	100.0	18.2	29.7	21.6	21.3	9.2	-
父子世帯	100.0	9.2	27.9	27.4	20.9	14.2	0.3
核家族	100.0	5.4	21.1	27.9	26.0	19.6	-
三世帯家族	100.0	14.3	37.0	26.6	14.3	7.1	0.6
一般世帯	100.0	34.7	27.3	15.2	15.0	7.7	0.1

表30 世帯類型別にみた配偶者無しの理由

(%)

	総 数	生 別	死 別	そ の 他	不 詳
総 数	100.0	58.8	29.2	6.4	5.6
母子世帯	100.0	59.8	28.2	6.7	5.4
核家族	100.0	61.9	27.4	6.4	4.3
三世帯家族	100.0	51.3	31.4	7.8	9.5
父子世帯	100.0	54.2	34.1	5.0	6.7
核家族	100.0	50.5	39.2	6.4	3.9
三世帯家族	100.0	59.1	27.3	3.2	10.4

表31 世帯類型別にみた健康状態

(%)

	総 数	心身とも 快 楽	どちらかとい えば快調	どちらかとい えば疲れ	疲れがたま り不十分	どちらとも いえない	不 詳
総 数	100.0	37.3	36.9	14.1	4.8	4.5	1.8
母子世帯	100.0	20.9	28.4	25.2	17.1	6.4	2.0
核家族	100.0	19.7	27.0	25.8	18.9	6.4	2.3
三世帯家族	100.0	25.8	33.9	23.0	10.1	6.4	0.8
父子世帯	100.0	33.0	31.6	16.5	11.5	5.3	2.2
核家族	100.0	28.9	31.9	17.2	12.7	5.9	3.4
三世帯家族	100.0	38.3	31.2	15.6	9.7	4.5	0.6
一般世帯	100.0	38.8	37.5	13.4	4.1	4.4	1.8

表32 世帯類型別母の就労状況

(%)

	総 数	就労してい る	正規職員 ・従業員	パート等	自 営 業	そ の 他	就労してい ない	不 詳
総 数	100.0	59.7	18.4	4.3	13.0	6.77	38.4	1.9
母子世帯	100.0	83.6	37.6	26.7	10.3	9.0	14.0	2.4
核家族	100.0	83.6	36.8	28.4	9.5	8.9	13.7	2.7
三世帯家族	100.0	83.5	40.9	19.9	13.4	9.2	15.4	1.1
一般世帯 (母親のみ)	100.0	57.0	16.3	21.0	13.3	6.4	41.1	1.9

平山他：『子どもと家庭に関する実態調査』のクロス分析による考察

表33 世帯類型別にみた家庭に関する悩みごと

(%)

	総数	家族関係での悩み等	祖父母など親戚関係	近所づきあいもない	子育てに自信がない	老親、病人がいる	子育てと仕事等の両立	その他	特になし
総数	100.0	15.1	5.7	2.2	9.6	8.0	18.2	6.3	58.0
母子世帯 核家族 三世大家族	100.0	21.4	6.7	5.9	16.7	8.9	34.6	9.9	39.3
	100.0	21.5	6.9	6.7	17.0	5.2	35.0	10.0	39.3
	100.0	20.7	5.9	2.8	15.4	23.5	33.1	9.5	38.9
父子世帯 核家族 三世大家族	100.0	25.0	7.5	7.5	15.9	14.8	36.9	7.0	42.2
	100.0	29.9	9.8	10.3	16.7	9.3	38.2	7.8	41.2
	100.0	20.8	4.5	3.9	14.9	22.1	35.1	5.8	43.5
一般世帯	100.0	14.7	5.6	2.0	9.2	7.9	17.1	6.1	59.2

表34 世帯類型別にみた子育てに関する悩みごと

(%)

	総数	しつけに関する事	健康に関する事	勉強等に関する事	友人に関する事	心身の発達に関する事	非行等に関する事	その他	特になし
総数	100.0	34.7	21.9	36.4	11.1	3.9	5.4	2.7	36.7
母子世帯 核家族 三世大家族	100.0	33.8	24.6	44.6	14.1	3.9	9.6	4.4	23.5
	100.0	33.0	24.8	45.0	14.1	3.6	9.9	4.4	23.6
	100.0	37.3	23.5	43.1	14.0	5.0	8.4	4.5	29.1
父子世帯 核家族 三世大家族	100.0	36.9	24.9	43.6	11.2	4.5	13.1	3.6	30.4
	100.0	34.3	27.0	45.6	14.2	4.4	13.7	4.4	31.4
	100.0	40.3	22.1	40.9	7.1	4.5	12.3	2.6	29.2
一般世帯	100.0	34.7	21.7	35.8	10.9	3.9	6.1	2.5	37.2

表35 世帯類型別にみた子育ての条件

(%)

	総数	家族の協力	子供との時間	近所・親戚等と相談	相談できる専門機関	不詳
総数	100.0	48.3	37.9	7.6	5.2	1.0
母子世帯 核家族 三世大家族	100.0	26.5	50.0	13.7	8.1	1.7
	100.0	22.3	52.6	14.5	8.7	1.8
	100.0	42.9	39.8	10.6	5.6	1.1
父子世帯 核家族 三世大家族	100.0	31.8	48.6	10.3	5.0	4.2
	100.0	27.5	51.0	11.8	5.4	4.4
	100.0	37.7	45.5	8.4	4.5	3.9
一般世帯	100.0	49.7	37.1	7.2	5.1	0.9

表36 世帯類型別にみた望ましい家庭のイメージ

(%)

	総数	保養型	啓発型	共同生活型	友達型	相互援助型	不詳
総数	100.0	38.8	4.8	7.0	11.1	37.5	0.7
母子世帯 核家族 三世大家族	100.0	25.7	2.1	5.7	16.4	48.7	1.5
	100.0	24.9	2.0	6.0	17.4	48.0	1.7
	100.0	28.9	2.5	4.5	12.3	51.3	0.6
父子世帯 核家族 三世大家族	100.0	27.7	2.8	10.1	12.8	45.0	1.7
	100.0	23.5	2.9	9.8	13.2	48.5	2.0
	100.0	33.1	2.6	10.4	12.3	40.3	1.3
一般世帯	100.0	39.7	5.0	7.1	10.8	36.9	0.6

表37 世帯類型別にみた望ましい家庭のイメージの実現度 (%)

	総 数	実現している	まあ実現している	あまり実現していない	実現していない	不 詳
総 数	100.0	9.3	65.9	19.7	4.3	0.8
母子世帯	100.0	8.1	55.2	23.4	11.5	1.8
核家族	100.0	8.4	53.6	23.2	12.7	2.0
三世代家族	100.0	7.3	61.3	23.3	6.4	1.1
父子世帯	100.0	7.0	47.8	30.4	12.3	2.5
核家族	100.0	5.4	47.5	30.4	13.7	2.9
三世代家族	100.0	9.1	48.1	30.5	10.4	1.9
一般世帯	100.0	9.4	66.6	19.4	3.8	0.7

表38 世帯類型別にみた理想的な父親像 (%)

	総 数	きちんとしつける	自分の生き方を示す	相談相手にな	干渉しない	友達のようにつきあう	その他	不 詳
総 数	100.0	35.2	14.1	28.9	7.8	9.9	1.7	2.4
父子世帯	100.0	39.1	10.3	18.7	16.2	12.0	1.4	2.2
核家族	100.0	40.7	10.3	18.1	17.2	10.8	1.0	2.0
三世代家族	100.0	37.0	10.4	19.5	14.9	13.6	1.9	2.6
一般世帯	100.0	35.2	14.1	29.0	7.7	9.9	1.7	2.4

表39 世帯類型別にみた理想的な父親像の実現度 (%)

	総 数	きちんとできている	まあまあできている	あまりできていない	まったくできていない	不 詳
総 数	100.0	8.4	64.9	21.0	2.0	3.7
父子世帯	100.0	6.7	50.3	28.2	3.1	11.7
核家族	100.0	7.4	51.5	27.0	1.0	13.2
三世代家族	100.0	5.8	48.7	29.9	5.8	9.7
一般世帯	100.0	8.4	65.0	20.9	2.0	3.6

表40 世帯類型別にみた理想的な母親像 (%)

	総 数	きちんとしつける	自分の生き方を示す	相談相手にな	干渉しない	友達のようにつきあう	その他	不 詳
総 数	100.0	54.0	6.3	17.7	6.5	10.7	1.6	3.1
母子世帯	100.0	44.6	8.5	19.7	8.0	16.2	1.0	1.9
核家族	100.0	44.1	8.5	19.5	8.4	16.4	1.0	2.1
三世代家族	100.0	46.8	8.7	20.4	6.7	15.7	0.8	0.8
一般世帯	100.0	54.6	6.2	17.6	6.4	10.4	1.7	3.2

平山他：『子どもと家庭に関する実態調査』のクロス分析による考察

表41 世帯類型別にみた理想的な母親像の実現度 (%)

	総 数	きちん とでき ている	まあま あでき ている	あまりで きてい ない	まった くでき ていな い	不 詳
総 数	100.0	6.5	65.9	21.8	1.3	4.5
母子世帯	100.0	4.0	56.6	26.4	3.5	9.5
核家族	100.0	4.2	55.3	26.9	3.4	10.2
三世大家族	100.0	3.1	61.6	24.6	3.9	6.7
一般世帯	100.0	6.6	66.4	21.8	1.2	4.3

表42 世帯類型別にみた就労父親の家庭との両立度 (%)

	総 数	役割果 たして いない	努力し てい る	両立さ せて い る	仕事が多 少性	そ の 他	不 詳
総 数	100.0	14.9	60.0	17.2	1.6	4.6	1.7
父子世帯	100.0	19.3	51.8	13.1	7.1	4.2	4.5
核家族	100.0	17.3	50.3	15.2	7.3	4.2	5.8
三世大家族	100.0	22.1	53.8	10.3	6.9	4.1	2.8
一般世帯 (父親のみ)	100.0	14.8	60.2	17.3	1.5	4.6	1.7

表43 世帯類型別にみた就労母親の家庭との両立度 (%)

	総 数	役割果 たして いない	努力し てい る	両立さ せて い る	仕事が多 少性	そ の 他	不 詳
総 数	100.0	4.1	56.0	25.8	6.9	3.8	3.5
母子世帯	100.0	8.2	62.4	17.3	5.0	4.2	2.9
核家族	100.0	7.4	61.9	18.1	5.5	4.2	2.9
三世大家族	100.0	11.4	64.4	14.1	3.4	4.0	2.7
一般世帯 (母親のみ)	100.0	3.4	54.9	27.2	7.2	3.7	3.6

表44 世帯類型別にみた望ましい近所付き合い (%)

	総 数	活発な 交流	ほと どの 交 流	必要最 小限 が い い	不 詳
総 数	100.0	13.1	72.9	13.4	0.6
母子世帯	100.0	7.9	65.7	25.1	1.3
核家族	100.0	7.7	64.2	26.6	1.5
三世大家族	100.0	8.7	71.4	19.3	0.6
父子世帯	100.0	13.4	57.5	26.0	3.1
核家族	100.0	8.3	59.3	28.4	3.9
三世大家族	100.0	20.1	55.2	22.7	1.9
一般世帯	100.0	13.4	73.5	12.6	0.5

表45 世帯類型別にみた近所付き合いの実態 (%)

	総 数	親しくつきあっている	ときどき話をする程度	挨拶する度	名前も知らない	不詳
総 数	100.0	26.0	54.9	17.6	0.6	0.8
母子世帯	100.0	17.5	53.8	25.9	1.3	1.4
核家族	100.0	15.6	53.9	27.5	1.4	1.6
三世帯	100.0	25.2	53.8	19.9	0.6	0.6
父子世帯	100.0	15.6	46.9	32.7	1.7	3.1
核家族	100.0	9.3	48.0	36.3	2.0	4.4
三世帯	100.0	24.0	45.5	27.9	1.3	1.3
一般世帯	100.0	26.6	55.1	17.0	0.5	0.8

表46 世帯類型別にみた家庭の役割 (%)

	総 数	安らぎやくつろぎ	家族がお互いに助けあう	子供を産んで次の世代	子供を元気に育てる	子供のしつけ、ルール	親の知恵や知識を伝える	高齢家族を介護	生活のための収入を得る	清潔で快適な生活の場	遊びレジャーを楽しむ
総 数	100.0	67.3	67.7	4.3	49.3	48.9	14.2	8.5	16.1	9.6	11.4
母子世帯	100.0	60.8	73.4	3.0	48.9	47.3	12.5	10.9	19.7	9.9	8.1
核家族	100.0	62.0	72.7	2.9	48.4	47.2	12.6	10.1	19.8	10.3	8.4
三世帯	100.0	58.0	76.2	3.4	51.0	47.6	12.3	14.3	19.0	8.4	7.0
父子世帯	100.0	51.7	68.7	4.7	47.2	47.8	12.3	11.5	22.6	12.0	12.6
核家族	100.0	54.4	67.6	5.4	41.7	50.0	10.8	5.9	22.5	13.2	16.2
三世帯	100.0	48.1	70.1	3.9	54.5	44.8	14.3	18.8	22.7	10.4	7.8
一般世帯	100.0	67.8	67.4	4.3	49.4	49.0	14.3	8.4	15.8	9.6	11.6